

令和5年 6月 16日

研究研修・調査報告書	会 派 名 公明党	
	代 表 者 名 森 秀樹	
	無所属議員名	
研究研修・調査 議 員 名	春増 勝利 _____ _____ _____	
研究研修・調査 日 程	令和5年5月24日 ~ 令和5年5月24日	
研究研修・調査 報 告	1	研究研修会開催地・調査先進地 広島県福山市立誠之中学校
		研究研修・調査内容 不登校生徒への支援について
	2	研究研修会開催地・調査先進地
		研究研修・調査内容
	3	研究研修会開催地・調査先進地
		研究研修・調査内容
	4	研究研修会開催地・調査先進地
		研究研修・調査内容
	5	研究研修会開催地・調査先進地
		研究研修・調査内容

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

1

研究研修会開催地・調査先進地

広島県福山市立誠之中学校

研究研修・調査内容

不登校生徒への支援について

視察日 令和5年5月24日10:00~12:00

視察先 福山市立誠之中学校

広島県福山市新涯町6丁目14-1

応対者 福山市教育委員会 指導主事

福山市立誠之中学校 校長

教頭

きらり担任教諭（教務主任）

(1) 所感

スペシャルサポートルーム（SSR）を利用する生徒を第一に考えた職員の配置がされていることに驚かされた。本市の教室に入ることができない児童生徒支援の参考になることが多い視察となった。

(2) 提言

- ① 今ある中学校の別室指導教室をSSRと捉え直し、教室環境を整備する。
- ② 不登校指導員に加え、指導体制を充実する。

(3) 課題

平成28年に議員立法で成立した、教育機会確保法の理念を、全教職員が理解して、不登校児童生徒やその保護者の思いを尊重して支援をすること。

SSRの環境整備や指導体制の充実には、新たな予算が必要となる。実際に誠之中学校も事業立ち上げ当初は、県の不登校対策研究指定、市のSSR推進指定を受けている。

※詳細は別紙

令和5年5月24日、不登校傾向にある生徒の支援を学ぶため、広島県福山市にある誠之中学校を視察しました。本年3月、文科省が増え続ける不登校対策として発表した「COCOLOプラン」にも紹介されている、一人一人のニーズに応じた多様な学びの場 SSR（スペシャルサポートルーム）を設置している学校です。市教委指導主事、校長、教頭、SSR 担任の各先生方からお話を伺い、実際に SSR や学習室も見学させていただきました。高砂市において増え続ける不登校についての対策の中でも、多様な学びの場の充実は、学校や教室に行けない子どもたちのために、喫緊に取り組まなければならない課題だと考えています。

誠之中学校は、全校生徒 600 名弱の中規模校で、不登校など長期欠席者の増加は大きな課題となっています。校長先生は他校で 5 年前に SSR を立ち上げ、教頭先生は誠之中学校で立ち上げから SSR 担任として関わったということで、実際に経験として貴重なお話をしてくださいました。SSR の立ち上げについては職員の中でも議論があり、フリースクールのような居場所を作ってしまったら、そこに流れる生徒が増えて、学校全体の規律が崩れるのではないかと危惧する声もあったそうです。しかし、教室に入ることができない生徒を学校につなぎとめて、何としても不登校にしないという校長先生の強いリーダーシップで取り組んだそうです。実際に視察をして学んだこと、感じたことを 3 点に分けて報告したいと思います。

① SSR 担任は学校の中核になる先生

教頭先生は 5 年前に SSR の担任を言われた時、普通学級の担任をしたい思いが強く抵抗があったと言います。それが、SSR で深く生徒一人一人に向き合うことで、今は管理職の立場になって SSR を支えるように変わりました。現在の担任も 30 代の教務主任で、本来なら学年主任や研究主任でバリバリ活躍していそうなミドルリーダーの男性教諭です。SSR 推進事業は県の指定でもあり、SSR 担任は授業を持ちません。その代わりに、県費で短時間勤務の先生が配置され、普通学級の授業をしています。他の推進校でも、教務主任や生徒指導担当が、SSR の担任をしているケースがほとんどだそうです。また、SSR には担任の他に支援員が市費で配置され、二人で運営されています。お話を伺って、この力の入れ方が、SSR が定着している要因だと直感しました。よくあるケースは、不登校や教室に入れられない生徒がいれば、相談室や校内の空き教室を活用して別室をつくり、対応するのは授業が空き時間の先生か管理職、他のスタッフになります。もちろん、対応する教職員も空き時間といっても他にやるべき業務があり、負担が増えます。時には、生徒だけが別室で過ごす場面も見かけました。何よりも、生徒自身の気持ちを考えてみた時、その環境では「本当は教室に行かないといけない」「せっかく学校に来たけど誰も構ってくれない」等と自己肯定感を下げてしまうだけではないでしょうか。誠之中の SSR を視察した時は、二人の女子生徒が教室とオンラインでつながりヘッドホンをして授業を受けていました。また、別の男子生徒は、支援員とホームページの作成に取り組んでいて、時々生徒が先生や支援員につっこみを入れる微笑ましい様子も見られました。これまでイメージしてきた別室との大きな違いを目の当たりにしました。

② 学習室で 5 教科の授業も

SSRの3・4校時は学習室での授業になっています。SSRは個別に学習するスペースと小集団で活動するスペースがあるのですが、これとは別に少人数で授業ができる学習室があります。そこでは、毎日2時間、本来の教室で教えている先生がSSR利用の生徒と授業をします。校長先生に「先生方も空き時間がなくて大変ですね。」と尋ねたところ、「年度当初から、これも授業の持ち時間にカウントしています。」という答えでした。だから、教える先生の方も1授業として計画的に仕事ができ、余計な負担にはならない。しかもSSRを利用する生徒との繋がりを持てる。校長先生のマネジメント力を感じます。さらに、生徒にとっては教室で受けることができない5教科の授業を自分のペースで受けることができる。進路を考えると不登校生徒の学習支援は、もっとも大きな課題なので、高砂市でも生かしたいアイデアです。視察の時は、男子生徒が理科の授業を受けていました。生徒が得意な元素記号を覚えて、理科の先生とマンツーマンでクイズ形式にして楽しく進めていました。おそらく教室の中では、彼のそんな生き生きした表情は見ることはできなかったでしょう。

③ SSRの成果と課題

成果として、SSRがあることによって生徒が安心して登校できるようになったことがあげられます。これは、不登校傾向にある生徒に限らず、普通教室にいる生徒にも言えることです。実際に視察した時にSSRを利用していた生徒の一人は、友達関係でうまくいかないことがあって、席替えするまでの限定と決めて利用していました。何かあったらSSRに行けるという安心感。SSR担任の先生が「それは、先生方も同じです。」と語っておられました。①にもつながりますが、学校や教室にいづらくなかった生徒がいても、安心して任せられる先生と環境がSSRには揃っているからではないかと思います。さらに、小学校で同じようなSSRを利用していた生徒や長期欠席していた生徒が、誠之中学校に入学してSSRを利用せず、教室で頑張ることができているというのです。こういった事例もSSRがあるという安心感が大きな要因ではないでしょうか。

市教委の分析では、SSR推進校はそれ以外の学校と比較したところ、不登校の長期化と不登校生徒の増加防止に一定の成果が見られるということでした。数字には現れませんが、実際に視察をして、教室まで行けなくても学校に来た生徒一人一人が、充実した学びができていることにSSRの大きな存在意義を感じました。

課題としては、個別支援の負担感が挙げられます。一人一人に個別最適な学びを実現しようとする、その計画や記録も大変です。校長先生は校務支援システムに統一したシステムがあればと語っておられました。誠之中では、毎週火曜日の3校時に生徒支援委員会を開き、管理職、生徒指導担当の他に養護教諭やSC、SSWも入って、不登校をはじめ生徒一人一人を適切に見取り、支援方針を決定する工夫をされていました。また、一覧シートを作って教職員に共有できるようにもなっていました。

視察でいただいたパンフレットの中に、SSRは何を目指して設置されているのかという問いに、「生徒自身が自分の強みと弱みを知ることを目指しています。」とありました。まさにSSRは、生徒にとって自分らしく自立する力を養う一歩を踏み出す場所なのだと思います。踏み出す場所がしっかりしているのは、接する大人が生徒自身の無限の可能性を固く信じているからこそであるということを学ばせていただきました。

2023年 8月 3日

研究研修・調査報告書	会 派 名	公明党
	代 表 者 名	森 秀樹
	無所属議員名	
研究研修・調査 議 員 名	迫川 高行 <hr/> 春増 勝利 <hr/> <hr/>	
研究研修・調査 日 程	2023年 7月 27日 ~ 2023年 7月 28日	
研究研修・調査 報 告	1	研究研修会開催地・調査先進地 石巻市震災遺構門脇小学校
		研究研修・調査内容 東日本大震災の被災状況について
	2	研究研修会開催地・調査先進地 石巻市役所
		研究研修・調査内容 防災・減災対策の取り組みについて、防災センター視察
	3	研究研修会開催地・調査先進地 名取市役所
		研究研修・調査内容 DX推進事業について
	4	研究研修会開催地・調査先進地 名取市震災伝承館
		研究研修・調査内容 東日本大震災での関上地区の被災状況・復興について
	5	研究研修会開催地・調査先進地
		研究研修・調査内容

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

1	研究研修会開催地・調査先進地 石巻市震災遺構門脇小学校
	研究研修・調査内容 東日本大震災の被災状況について

震災遺構として整備された門脇小学校を視察し、館内に当時のまま残されている教室の様子や、津波によって校舎に叩きつけられて歪んだ消防車両などが展示されており、その甚大さを伝えるものでした。

伝承ビデオでは、門脇小学校に避難していた方々が、教室にあった教壇を橋代わりにして、校舎から裏山に避難した証言が上映されており、垂直避難だけではすべての命を守ることが難しいことを学びました。

門脇小学校の近くには、宮城東日本大震災津波伝承館があり視察いたしました。語り部の方より直接、門脇地区の震災当時の様子をお聞きするとともに、避難生活を通して感じた点についても知ることができ、防災対策推進の重要性を改めて認識しました。

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

2

研究研修会開催地・調査先進地

石巻市役所

研究研修・調査内容

防災・減災対策の取り組みについて、防災センター視察

東日本大震災における石巻市の被災状況の概要・対応についてお聞きしました。その中では、震災直後通信手段が途絶える中での、被災状況が把握できなかった点や市民への災害状況発信ができなかった点などの課題があったこと、避難所運営で救援物資の職員による物資配送を一部開始するまでに、3日間を要したとのことでした。

また、災害廃棄物が、通常のごみ量処理量の108年分が発生したが、全国からの協力をもらって、3年で処理を完了されました。

震災を通しての防災・減災対策への取り組みで、基本理念として、「災害に強いまちづくり」として、ハード面においては、高盛土道路整備、水門等の海岸保全施設整備、防災集団移転促進、避難所等機能整備、また、防災行政無線の整備、衛星携帯電話の支所等への配備など多面的に進められている。

ソフト面では、「自助・共助・互助」を基本とし、相互に補完し協働することを基本理念に、防災リーダーの育成等に取り組まれています。

防災センターは、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模災害における災害本部の体制整備強化を図るため、市庁舎及び各防災関係機関と連携し、迅速な防災対策を行う機能を有した防災拠点となっています。

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

3

研究研修会開催地・調査先進地

名取市役所

研究研修・調査内容

D X推進事業について

名取市は、隣接の岩沼市とともに、N T T東日本と連携し、D Xや地方創生に取り組まれています。

D X推進の庁内体制として、庁内におけるD X施策に向けてA Iシステム推進課を、市民の利便性向上、社会課題の解決、新たな価値創造に向けてD X推進室を立ち上げられて、D X化を進めています。

公共交通の最適化に向けて、A I デマンド交通の導入など行われ、D Xを市民の利便性につなげられています。今後は、地元商工会議所と連携して、デジタル地域通貨の導入を検討されているとのことでした。

書かない窓口は、本年3月より実施されています。今後、各種手続きにおいてネット申請が行えるようにして、行かない窓口を進めようと考えているが、本人確認、手数料決済が課題となっている。

N T T東日本から4名が出向されていてD X推進を民間のノウハウを活かしながら進められており、官民連携の重要性を改めて学ばせて頂きました。

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

4

研究研修会開催地・調査先進地

名取市震災復興伝承館

研究研修・調査内容

東日本大震災での閉上地区の被災状況・復興について

名取市で甚大な被害のあった閉上地区に、名取市震災復興伝承館があります。館内では、震災当時の被災状況、防災対策を踏まえた復興の取り組みについて、展示物、ビデオを通して学ぶことができました。

館内には、水の力を体感できる手軽な防災体験などがあり、このような常設展示が本市にもあると防災学習の充実につながるものとする。